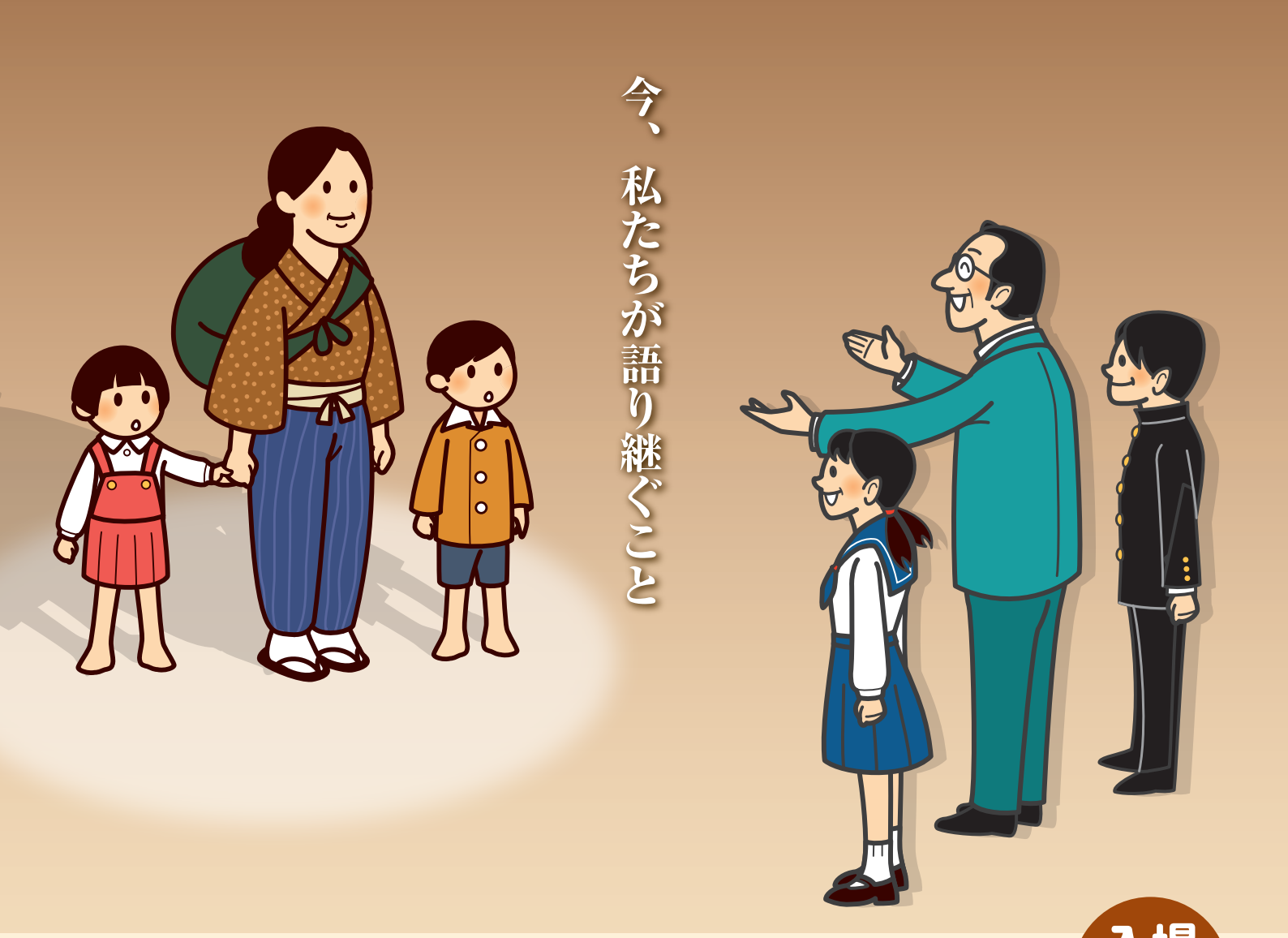

入場無料

中国残留邦人への理解を深めるシンポジウム

为了加深对遗华日本人理解的论坛会

舞台公演

劇団道化

『吉林食堂
～おはぎの美味しい
中華料理店～』

ー大谷昭宏著
「春美16歳の日本」よりー

シンポジウム

大谷昭宏氏
［ジャーナリスト］

城戸久枝氏
［ノンフィクションライター］

2010年
2月21日(日)
13:30～17:00
よみうり文化ホール

●地下鉄「千里中央」駅から徒歩1分
●大阪モノレール「千里中央」駅から徒歩1分

［住所］豊中市新千里東町1-1-3　［会場HP］http://www.yomiuri-bc.co.jp/

お申し込み先着500名様
※お申し込みが必要となります。裏面の「申し込み方法」をご覧ください。

■主 催／厚生労働省　■後 援／大阪府・大阪府教育委員会

《シンポジウム問合せ先》〒107-0062　東京都港区南青山2丁目7番11号
中国残留邦人シンポジウム事務局　☎03-5412-7668
URL：http://www.zanryuhojin.jp
中国残留邦人シンポジウム　検索

中国残留邦人への理解を深めるシンポジウム

舞台公演 （13:45～15:35）

劇団道化

『吉林食堂
～おはぎの美味しい中華料理店～』
ー大谷昭宏著「春美16歳の日本」よりー

・1965年創立。
・九州各地の離島・山間部での公演、北海道から沖縄までの全国公演、韓国・中国・タイなどアジア各地での海外公演と、その多様な公演形態は群を抜き、九州の青少年演劇劇団の草分け的存在。

《1972年 フクニチ文化賞・1985年 福岡市文化功労賞・1995年 福岡市文化功労賞・2004年 上海国際児童演劇祭グランプリ・2005年 福岡県文化賞 》

http://www.douke.co.jp/

あらすじ

福岡で小さな中華料理屋を営む中国残留孤児とその二世の話。

1945年。日本の敗戦で混乱する満州・長春で、主人公の博（6才）は、母とはぐれて孤児となるが、幸い中国人の養父母に育てられ、長じてコックとして身を立てる。

1983年。「中国残留孤児帰国事業」により帰国した博は、生母・マサの住む佐賀に身を寄せたが仕事がうまくいかず、周囲の援助を受けて、福岡で小さな中華料理屋を開く・・・・。

この作品は、1988年を舞台にした博と息子・新一（18才）と娘・純子（15才）の家族の物語である。

言葉の問題や学力差で高校進学を諦めた新一、高校受験を控えた純子。日本語や日本の習慣にいっこうになじまない父がいつも二人を悩ませる。彼らを励ますマサは、大きな悲しみを抱えていた。戦後の満州を生き延びるために博の妹・さと子（2才）を見殺しにしたと思い込んでいるマサは、良心の呵責の中で戦後の40年を生きてきたのだった・・・・。

シンポジウム （15:55～17:00）

大谷昭宏氏［ジャーナリスト］

・東京生まれ
・早稲田大学政経学部卒
・元読売新聞社会部記者
・日刊スポーツにコラム「フラッシュアップ」を連載、朝日放送「NEWSゆう＋」TBS系列「ひるおび」テレビ朝日系列「サンデープロジェクト」などに出演中「春美16歳の日本」など中国残留邦人に関する著書も出している

城戸久枝氏［ノンフィクションライター］

・愛媛県松山市生まれ
・徳島大学総合科学部卒
・大学在学中に、中国の吉林大学へ2年間国費留学
・出版社勤務を経て、2005年フリーに
・日本生まれの中国残留孤児二世として、残留邦人への取材活動を続けている
・10年という年月をかけて取材を重ね、長篇『あの戦争から遠く離れて　～私につながる歴史をたどる旅』を2007年8月上梓同著にて、第39回大宅壮一ノンフィクション賞、第30回講談社ノンフィクション賞、第7回黒田清JCJ新人賞を受賞

中国残留邦人とは

今から65年前、「満洲」と呼ばれていた中国東北地区には、開拓団を始めとした多くの日本人が居住していましたが、突然のソ連参戦により、人々は長い逃避生活を余儀なくされ、逃避中や収容所等では、飢餓や伝染病等により死亡者が続出するという悲惨な状況となりました。

このような混乱の中、家族と離れ離れになり孤児となり中国人に育てられた子どもたちや、生活のため現地で結婚するなどして中国に留まった女性たちなどが、「中国残留邦人」と呼ばれる方々です。

支援の現状とシンポジウム

国や自治体では、日中国交正常化以降、段階を踏みながら、中国残留邦人の方々の円滑な帰国の促進と定着後の自立を支援するため、身元調査などの永住帰国の支援や、中国帰国者定着促進センター、中国帰国者自立研修センター、中国帰国者支援・交流センターの各種研修施設における日本語研修などを行ってきました。

しかし、中国残留邦人の方々は、長期の残留で日本人としての生活を失ったことにより日本語の習得や就労が難しく、また、高齢で帰国した方については老後の備えが不十分であるなど、経済的に自立出来ないことや、言葉や文化の違いから地域住民との付き合いが希薄となり社会的に孤立するなど、多くの困難に直面していました。

これを受け、平成20年4月から『新たな支援』として、高齢であることなど一定の条件を満たす中国残留邦人の方々に対しては「老齢基礎年金等の満額支給」と「補完する支援給付」による「老後の生活支援」を、また、全ての中国残留邦人の方々に対しては、研修施設退所後も身近な地域で永続的に日本語等を学び、地域住民の皆さまとの交流を図り安心した生活を送れるよう「地域社会での支援」を開始しました。

今回のシンポジウムは、地域社会での支援の要となる地域住民の皆さまに、中国残留邦人の方々への理解を深めていただくとともに、将来の支援者となる若い方々に中国残留邦人の方々の経験を「語り継ぐ」ことを目的に開催するものです。

申し込み方法

■FAXでの申し込み

下の申込書に必要事項を明記し、下記までご送信ください。

［FAX］**03-5412-7665**

■郵送での申し込み

下の申込書に必要事項を明記し、切り取って下記までお送りください。

〒107-0062　東京都港区南青山2丁目7番11号
中国残留邦人シンポジウム事務局

■ホームページでの申し込み

ホームページ上の申し込みフォームより申し込みください。

［URL］**http://www.zanryuhojin.jp**

※お申し込み先着500名様に参加証を送付します。
※御登録頂いた個人情報は、このシンポジウムの運営業務のみに使用し、終了後速やかに破棄します。

■シンポジウムに関するお問い合せは

☎ **03-5412-7668まで**（受付時間：10:00～17:00）

キリトリ

申込書　FAX 03-5412-7665

ふりがな お名前	性別　男　女	年齢　才
ご住所　〒		
電話番号	職業	

※シンポジウムのお申し込みにはお名前の登録が必要となり、複数でのお申し込みの場合にはコピーをおとりになり人数分ご記入いただくか別紙に同事項をご記入の上お申し込みください。